

優秀賞

## 六年生になつた今

福島県 いわき市立入遠野小学校六年 平子 瑞希

平成二十八年の今、私は小学六年生です。

小学校に入学したのは、東日本大しん災のあつた五年半前の四月です。あの時、私はようち園で祖母と二人でいる時にしん災にいました。原発事故もあつたため、岩手の母の友人の家に避難させてもらいました。そんな状況だったので、とても不安な気持ちで入学式をむかえたのを覚えています。

この五年半、わたしはたくさんの人達に支えられてここまで成長することができました。家族、友達、先生、近所の方や親せき、それに警察の方や消防の方、本当にたくさんの人達に助けられてきました。今、改めて言えることは「ありがとう」という言葉です。私は、今回「ありがとう」という言葉の意味について調べてみました。すると、三つの意味があると知りました。

一つ目は、私がこれまで考えていた感謝の意味を

こめての「ありがとう」です。

二つ目は、苦しい事や辛い事も「与えられた事」として感謝して受け入れ、「有難う」とする。

三つ目は、全ての災難やあやまちを終わらせる言葉でもあるそうです。漢字で書いた「有難う」は、「ありがとうがたし」という意味もあるとのことでした。

今の私には、後半の二つはとても難しく、何度も考えてもはっきり分かりません。ただ、少しだけ分かつたのは、私は思い出すのも辛い大しん災にいました。私よりもっと辛く、苦しい思いをした人達がいるということ、その人達がどのような思いで今を生きているのか、ということでした。

私が岩手に避難させていただいた時、その家の息子さんの友達が遊びに来ました。その方は、四月から高校の先生になると話していました。とても明るくて、優しく、小さかつた私ともたくさん遊

んでくれました。

しかし、そのお兄さんが帰った後、お母さんの友達のおばさんは、

「あの子は、津波で家を流され、家族も流され、独りぼっちになってしまったんだよ。」

と教えてくれました。

私は、その時は小さかったので、あまりよく分かりませんでしたがお母さんからその話を何回も聞いているうちに、あの時のお兄さんの気持ちはどうだったのかなど、考えるようになりました。辛く苦しい現実をどう受け止め、これから先「有難い」と感じ、前向きに生きていこうとすることが、私の難しいと感じた二つ目や三つ目の「有難い」につながっていくのかなと思いました。私が経験した大しん災を、「有難い」とか「ありがとう」と受け止めることはまだできませんが、六年生になった今、この貴重な体験をこれからどう生かし、社会の役に立てられるのか考えていきたいと思えます。そして、周りの人に新たな気持ちで「ありがとう」と伝えたいです。

